

# 支える 中小企業

®

三輪で重い荷物も楽に運べ、2つの前輪は段差でも安定する独自機構。こんな電動アシスト三輪車を開発した豊田TRIKE(東京・港)は、4月に実施した資金調達もユニークだった。

自転車販売のシナネンサイクル(東京・港)から受注した。ただ、製造に必要な資金は手元に十分ない。銀行も通常なら簡単に貸してくれない。そこで同社は、受注記録を裏付けに組成した電子債権を担保に、商工組合中央金庫から2000万円の融資を受けた。

## 信金から拡大

電子債権の仕組みを提供したのは、金融サービス会社のトランザックス(東京・港)だ。過去の金融取引などを基に審査し、担保として使える電子債権を組成する。金融機関に融資の新たなスキームとして使ってもら

# 資金繰りに新たな「担保」

があれば、これを担保に資金を得られる。トランザックスはさらに受発注段階での担保化を可能にした。大塚博之社長は「融資枠がいっぱい、担保となる不動産を温存したいなどのニーズに応えることができる」と話す。

受発注の証拠をもとに電子債権を組成してそれを担保に融資する手法は「POファイナンス」と呼ばれる。4月には地方銀行として初めて、横浜銀行がトランザックスと組んで導入した。

東京都も設備や売掛債

企業ではなく、個々の融資残高も4兆円近くまで達する。19年3月期も全与信先の58%を占め、約2・6倍に増加した。

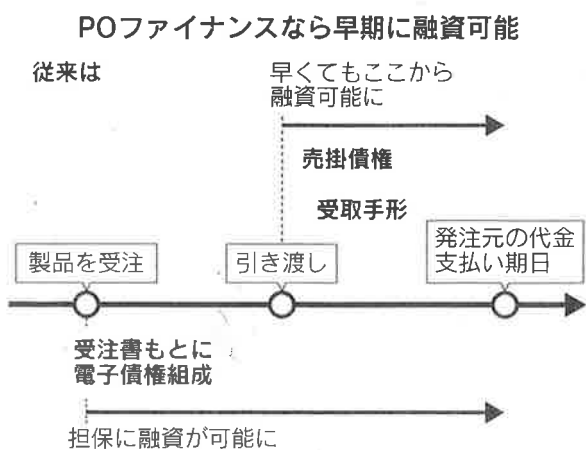


調達した資金を武器に、販売を拡大する(豊田TRIKEの三輪車)

権、在庫をもとに融資する事業性評価融資は「ABL」に力を入れ広がりを見せている。千葉銀行の18年3月期の事業性評価融資は約2万6千件と、2年前と比べて約2・6倍に増加した。

中小はメガバンクではなく、地銀との取引が中心だ。フィンテックの活用で地銀の融資がよくなる。迅速にされるようになる。中小の成長の後押しになる。地銀もフィンテック起業家との協業は融資先の確保など、新たなビジネスチャンスを開き起こす機会となる。

## 受注記録で電子債権



融資件数、割合ともにさらに伸びると見込む。京葉銀行も事業性評価融資に力を入れる。品川、東陽町の2支店を同融資の専門店舗として営業。若手行員の育成も強化し、同融資を21年3月期までに18年3月期の1・5倍の1万2千件まで拡大する計画だ。

コンペ通じ発掘

日銀のマイナスイノベーション策もあり、金融機関は融資などで従来より進化した。

秋山文人が担当しました。

秋山文人が担当しました。